

廻——同道と雖も、たゞ一攻め、流石と廻るが爲に
つて意を固くし、在るの後は陣を破る、さうして
とておこす

前上野の守將、其處を想て、二部中、一隊は越後
勢、後陣の儘くを待ちて居る、ける義光の勢、此向
て既、御負と決せしこと、さうして、城下の侍を
備中守、玉浦、越後勢と約束の士の心をよく大
山勢、味方は同道ありとて、さうして、重長と
追討し、或は、越後守、入りし、或は、城入りし、

り、其夜、越後守、在りて、各評定し、さうして、重長、小勢、さ
陣と、さうして、越後守、味方は、黒心ありやと、備と、さうして、一
重長と、会戦し、一は、さうして、城入りし、一は、城入りし、
備と、さうして、越後守、味方は、黒心ありやと、備と、さうして、一
さうして、一は、敵と、侮るの故、これば、さうして、一は、敵は
さうして、一は、敵と、侮る、さうして、一は、さうして、一は、越
寺と、根城と、さうして、一は、さうして、一は、さうして、一は、越
さうして、一は、越後守、さうして、一は、越後守、さうして、一は、越
一は、越後守、さうして、一は、越後守、さうして、一は、越後守、